

「2019 年 第 6 回日韓国際学術会議

今、アジア市民としての共生を探る—EU 構想の先駆け、安重根『東洋平和論』の 21 世紀的再評価—」

2019 年 11 月 2 日～3 日

文責・写真 佐野 馨

協議 浜菜みやこ、小林泰久

1. はじめに

安重根の「獨立」の書や遺墨 3 通が寄託・保管されている、京都 龍谷大学において、2019 年第 6 回日韓国際学術会議が開催され、小松社長の記念講演「戦後責任としてのアジアにおける平和の事業化」を聴講し、他の会議にも列席参加させていただきました。

小松社長から日頃にご教示いただくことですが、「歴史に盲目的な人間は、現在に対しても盲目である」というヴァイツゼッカーの言葉を、今回の聴講に併せて改めて心に刻みたいと思います。人間の過去の過ちの歴史に目をつむり、日常の快楽だけに翻弄される生き方はまさしく「迷い」であり、現在の生き方をも見失っていく様をヴァイツゼッカーは「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります」とも演説されているそうです。この言葉は、1985 年 5 月 8 日、戦後 40 年の節目の年。当時の西ドイツ大統領ヴァイツゼッカーが国会で行った演説の中の一言だそうです。ドイツは第二次世界大戦中、ヒトラーの独裁政治の下、ユダヤ人を大量虐殺した過去の歴史を抱えています。ヴァイツゼッカー大統領はその「負の歴史」の真実に真向かいとなり、間違いを犯した過去に一人一人が責任を負う事の大事さを「罪の有無、老幼いずれを問わず、われわれ全員が過去を引き受けねばなりません。だれもが過去からの帰結に関わり合っており、過去に対する責任を負わされております」と演説されたそうです。

このことを踏まえて、小松社長に孫文のことも教えていただきますが、過去を知ることが現代を見極めることでもある。現代の事柄を本当に知りたければ、過去の営みを知ることこそ役に立つ。そして、現在は、過去から未来へつづく道の通過点でしかない。今来た道を眺め、振り返って反対側に顔を向ければ、そこには未来へとつながる道が続いているのである。(日中百年の群像 革命いまだ成らず 譚璐美著あとがきより)の記載の通りと思います。これらを念頭に以下に報告いたします。

2. 日韓国際学術会議への参加者(小松関係 下記六名)

- ① 小松社長、②小松コリア尹熙竣代表、③浜菜みやこ MG、④小林泰久(情報 S)、⑤佐野馨(知財支援)
- ⑥ 小松社長関連の社外 株式会社 FP コンサルツ広場 代表取締役 中林俊彦 氏

3. スケジュール概要

10 月 31 日(木) 松江まちゼミ 打合せ冒頭挨拶、ANA 移動(米子→羽田)、東京支社、

午後 Kaichi Digital Services 合同会社 代表 鶏内裕久氏と小松社長面談
(同席 石多エドワード氏、浜菜 MG、小林泰久、佐野馨)

鶏内裕久氏は元グーグル勤務の経験あるとのこと、石多エドワード氏の紹介で面談。

18:30 開演「オペラ石見銀山」鑑賞(東京文化会館(上野公園内):約 2300 名)

小松社長の招待で、佐藤徹郎ご夫妻、中川十郎ご夫妻、石多エドワード氏、鶏内裕久氏
小松社長、浜菜 MG、佐野馨 の 9 名鑑賞

11月1日(金)午前 クラスメソッド社による技術カンファレンス「Developers IO Tokyo (デベロッパーズ アイオー東京)」を聴講。(東京日本橋タワーのベルサール東京日本橋にて開催)
小松社長に佐野同行参加。別途、マネージ掲示板に廣江深氏の聴講記録あり。

午後 新幹線移動(東京→京都)、小松社長、浜菜 MG、小林、佐野
京都駅で(株)FP コンサルツ広場 中林社長と合流。アーバンホテル京都にチェックイン。
18:00 Welcome 懇親会・食事会 ホテル エルシエント京都 1階和食「舞」
予定(韓国7名、日本7名、事務局5名)、小松サイド、小松社長、他、計6名参加。

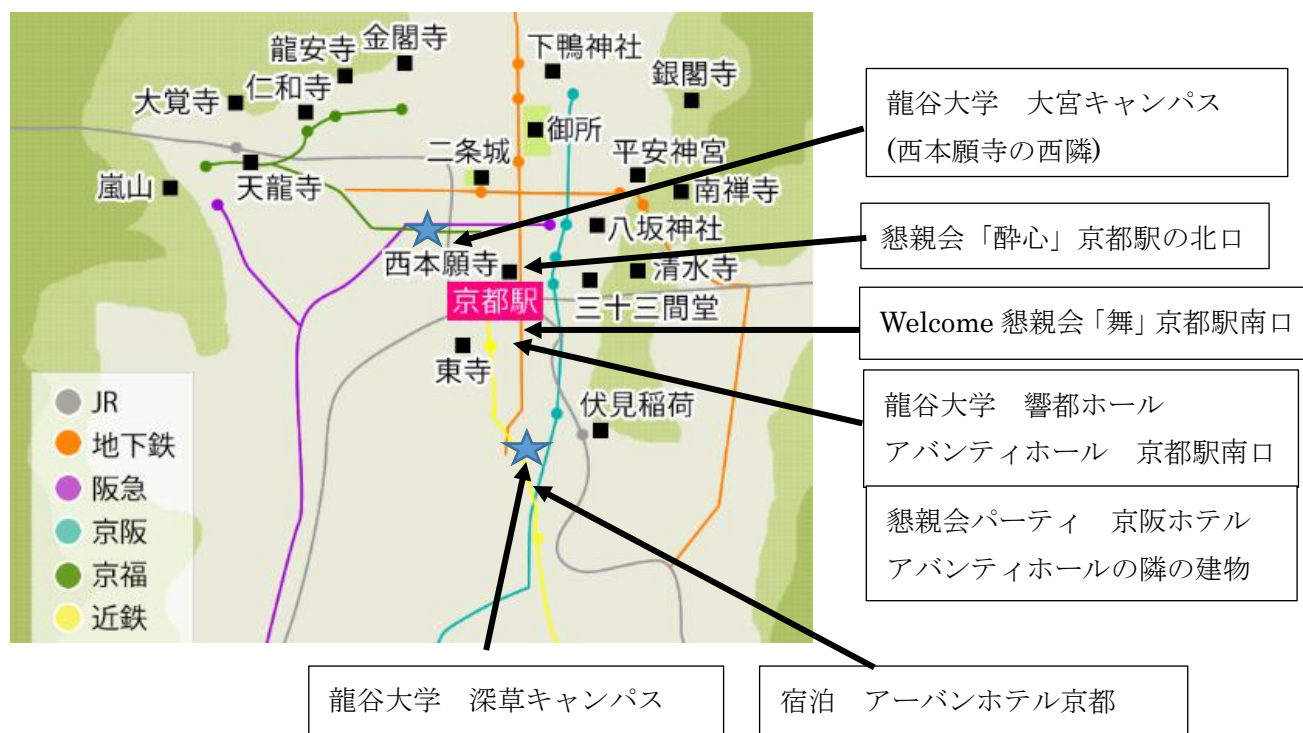
11月2日(土)午前 龍谷大学深草学舎 特別閲覧「安重根遺墨『獨立』」等および関係資料。全員
龍谷大学学長 入澤崇氏へ表敬訪問と昼食会(選抜者のみ)
(小松社長、小松コリア尹代表、韓国7名、事務局4名)

午後 龍谷大学 響都ホール(アバンティホール:京都駅の南口前)にて、
＜2019年 第6回日韓国際学術会議、第Ⅰ部挨拶と基調講演、第Ⅱ部学術シンポジウム＞
18:45～ 交流・懇親会パーティー(小松社長が主宰)司会(浜菜 MG) 通訳 尹代表、他

11月3日(日)午後 龍谷大学 大宮キャンパス(京都駅より北 西本願寺に隣接)にて、
＜2019年 第6回日韓国際学術会議、第Ⅲ部：ラウンドテーブル＞

11月4日(月)午前 新幹線、伯備線移動(京都→米子)、小松社長、浜菜 MG、佐野、
(株)FP コンサルツ広場 中林社長
午後 「水の都音楽祭 2019」(松江市) 鑑賞、夕方まちゼミ・子ども大学検討。

4.京都 龍谷大学 日韓国際学術会議の場所概要



5、「2019 年 第 6 回日韓国際学術会議

今、アジア市民としての共生を探究—EU 構想の先駆け、安重根『東洋平和論』の 21 世紀的再評価—

主催；龍谷大学社会科学研究所附属安重根東洋平和研究センター

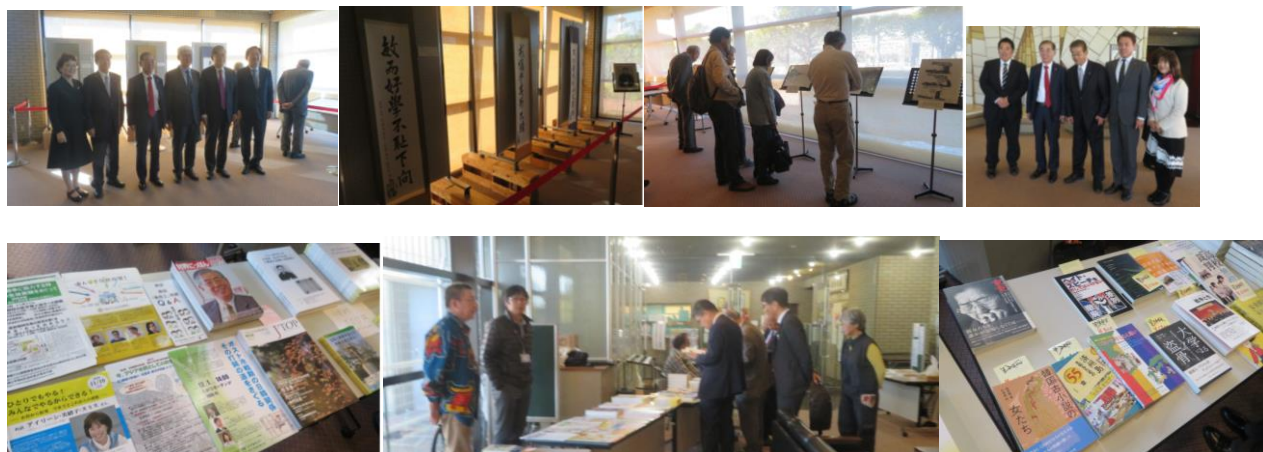
安重根義士記念館（韓国・ソウル）

協力；立命館大学コリア研究センター、コリア NGO センター、猪飼野セッパラム文庫、日本製鉄元徴用工裁判を支援する会、市民科学研究所、アジェンダ・プロジェクト、NPO 法人京都社会文化センター

11 月 1 日(土)18:00 Welcome 懇親会・食事会 ホテル エルシエント京都 1 階和食 「舞」		韓国側 7 名 日本側 7 名(小松 5 名) 事務局 5 名 出席者氏名等は後頁に記載
11 月 2 日(土)10:00～ 龍谷大学深草学舎図書館 「安重根遺墨『獨立』等および関係資料特別閲覧」		韓国側 7 名 日本側 7 名(小松 5 名) 事務局 5 名 出席者氏名等は別紙に記載
11:00～ 表敬訪問 学長室と昼食 龍谷大学 学長室 龍谷大学学長 入澤崇氏		韓国側 7 名 小松 2 名(小松社長、尹代表) 事務局 4 名(通訳 1 名)
< 第 6 回日韓国際学術会議 > (龍谷大学アバンティホール) 総合司会；角岡賢一(龍谷大学 教授・安重根東洋平和研究センタ ー事務局長)		
挨拶 龍谷大学学長 入澤崇 氏 (5 分)		多くの日本人は安重根をしらない。 「自省利他」(じせいりた)というメッ セージを掲げました。 安の遺墨は日韓交流の「礎」となる
主催者の挨拶 龍谷大学図書館館長 道元徹心 氏 (5 分)		龍谷大学見学の精神 「平等・自立・内省・感謝・平和」 平和は、人類の対話と共存を願う平和 の心。会議のテーマは「共生」 別紙 予稿集あり

11月2日(土) 主催者の挨拶 ソウル安重根義士崇募会理事長 金滉植 氏 (5分)		韓日の「碩学」(せきがく) 皆様が参加される国際学術会議をこの京都の地で持たれることを意義深く思います。 韓日の関係、外交的葛藤へと拡散していくこと もどかしい。安重根 世界平和に対する熱望を醒ます定義に・・・
主催者支援の挨拶 駐大阪大韓民国総領事館 総領事 吳泰奎 (オ・テギユ) (5分)		当時の日本は 安義士の 望みとはうらはらに 自国を捨て西洋のような帝国主義へ突っ走り アジアの多くの国を 侵奪しました。
主催者事務局の挨拶 李洙任・ 安重根東洋平和研究センター長 (5分)		安重根の遺墨 三本 寄託されたのは1997年。私が着任 1996年に着任する1年後に静かに寄託されました。 後一年で 龍谷大学を退職します。 別紙 予稿集あり
13:20～14:20 基調講演 (40分) 「EU(欧州連合)と、獨仏関係から学ぶ教訓」講演者：金滉植氏 (ソウル安重根義士崇募会理事長)		パワーポイントで説明される。小林様撮影のビデオあり 別紙 予稿集あり
14:25～15:05 記念講演 (40分) 表題「戦後責任としてのアジアにおける平和の事業化」 講演者：小松昭夫氏 (小松電機産業株式会社代表取締役)		浜菜 MG 事前紹介説明、スライド同時上映 小松社長 記念講演の後「出雲から陽が昇る」動画を上映 別紙 予稿集あり

(休憩 10 分) ホールにて歓談、記念写真、安重根の遺墨・写真展示品、書籍販売



11月2日(土) ソウル市長の 《平和と共生祈願のビデオメッセージ》を上映		ソウル市長、会議に参加できずに残念 ビデオメッセージで安重根の啓蒙をお 祈りし会議の開催をお祝します。 小林様撮影のビデオあり。
第Ⅱ部：学術シンポジウム 「E 構想の先駆け、安重根『東 洋平和論』の21世紀的再評価」 コーディネーター；牧野英二 氏（法政大学教授）		
15:15～報告者1（日本側40分） 「安重根の思想と行動」五味 洋治氏（東京新聞編集委員）		宮城県の安重根記念碑の案内用道 路標示が変更された。 日本の情勢が厳しい。歴史認識の 溝を埋める一步を・・・ 別紙 予稿集あり
報告者2（韓国側40分） 「安重根の東洋平和論」崔起 榮氏（西江大学校教授）		安重根の東洋平和論について、 各論からの展開で深く解明され 分かりやすく講演された。 別紙 予稿集あり
報告者3（韓国側40分）「安 重根 東洋平和論の世界史的 意義」呉瑛燮氏（延世大学校 現代韓国学研究所研究教授）		安重根のハルビン義挙110周年を記念 しての講演。韓中日三国の水平的自主 独立と人類平和の大義を具現するため の東洋平和論について説明された 別紙 予稿集あり
17:15～ 質疑応答 (質問用紙に出た問いを解説)		質疑内容、 小林様撮影のビデオあり
18:45～ パーティー(小松社 長が主宰、会場は京阪ホテル 2階、アバンティホールの隣 りの建物)	  小松社長 開会挨拶 司会 浜菜 MG 通訳 尹熙竣代表 乾杯挨拶 東郷和彦教授	

11月2日(土)

パーティー 前頁より

(小松社長が主宰、会場は京阪ホテル2階、アバンティホールの隣りの建物)

挨拶 金滉植

ソウル安重根義士崇募会理事長



李教授挨拶

ジャズシンガー

清水明日香氏紹介



李恵筠 安重根義士記念館 事務局長



弁護士 戸塚先生 遺墨の経緯についてご紹介

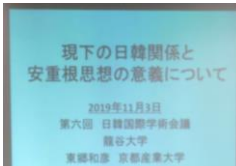


重本先生、李教授



小松社長
閉会の挨拶



11月3日(日)大宮キャンパス 13:00～17:30 第Ⅲ部： ラウンドテーブル「日本は“安重根”とどう向き合えばよいのか—安重根裁判、東洋平和論、そして東アジア共生社会の展望—」 龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室、 通訳者；オム・チャンジュンさん、 アシスト森さん コーディネーター；重本直利 (市民科学研究所専任研究員)	  挨拶 李洙任・安重根東洋平和研究センター長 (日本語「平和」→中国語「和平」しかない。) 挨拶 ソウル安重根義士崇募会理事長 (2012 国務総理の時、ドイツを訪問、EU 欧州連合がノーベル平和賞を受賞)	
13:15～15:15 日本側報告者；戸塚悦朗氏 (弁護士、元龍谷大学法科大学院教授)、＜通訳込み 40 分＞	 日本には表現の不自由がある。村山談話が安倍政権で抹消されている。 別紙 予稿集あり	 重本先生 通訳者
田中宏氏 (一橋大学名誉教授)、 ＜通訳込み 40 分＞		幼保の無償化は朝鮮は外す事に対しての日比谷の抗議集会に参加した。 日本の常識と世界の常識が違う。 別紙 予稿集あり
韓国側報告者；徐泳得氏 (韓国航空大学校航空法学科兼任教授) ＜通訳込み 40 分＞	 予稿集への準備をしていなく、昨夜一時まで慌ててメモを書き上げた。 (講演録は別途予定)	安の息子に伊藤の息子が謝罪する。 歴史を知ることが大事である。 韓国人は日本が真の謝罪をしていないと思っている。謝罪ということ ① 謝罪の対象、②心からの反省
15:15～15:40 休憩		
15:40～予定討論者；東郷和彦氏(京都産業大学法学部教授) ＜通訳込み 20 分＞	 	 京産大で英語による講義をしている。 岡崎久彦(日本の元外交官)は安重根が立派な人と悟った。
16:00～質疑応答	 日本の謝罪、輸出管理、徴用工問題など安重根よりも、当面の日韓問題などに質問が集中していた。安重根『東洋平和論』の21世紀的再評価—とは、再評価とは何を再評価するのか？	
17:00～まとめ(重本)		
17:20～閉会挨拶(平田先生) 17:30 終了		李先生は退官近しとなっているが、学長を韓国の安重根記念館に案内し、安重根東洋平和研究センターの体制を発展させたい。

18:00 懇親会 (京都駅前の「酔心」にて)	
宿泊ホテル アーバンホテル京都にて 記念品 50000 フォンのお札 の人「サイムダン」(師任堂:李氏朝鮮中期の女流書画家)が描れた絵を基にした絵画。 (小松社長、本物お札とセットで保管)	

【会議録 要旨】

11月2日(土)10:00～ 龍谷大学深草学舎図書館 「安重根遺墨『獨立』等および関係資料特別閲覧」		韓国側 7 名 日本側 7 名(小松 5 名) 事務局 5 名 出席者氏名等は別紙に記載
---	---	--

図書館の地下二階の保管室にて、安重根の遺墨と写真を閲覧させていただく。

なお、余談ですが、龍谷大学発行の安重根関連の書籍(2013.4～2014.4 基調講演集)の中に掲載されています牧野英二先生の講演記録を読ませていただきますと、牧野先生は、安重根を賞賛した漢詩の印刷された安重根の写真入り絵葉書の現物が保存されている某大学図書館に文書で閲覧を申し込まれたら、「現物の閲覧禁止、その複写も拒絶、複製の閲覧のみ許可」との回答で、更に閲覧の要望書を出されたら、「コピー 1 枚のみ許可、ただし他人に見せてはならない。研究で使用したのち、直ちに破棄する」という内容の誓約書に署名させられたそうです。某大学は、今もこのように厳しい状況に秘匿管理されているのか分かりませんが、それに比べると、今回の龍谷大学での閲覧は、原本を展示・開示されて、写真撮影

も自由に撮らせていただきまして感謝の至りです。以下、閲覧時の会話を記載してみました。

これが 有名な「獨立」の書です。書は、広島県安芸高田市「願船寺」の所有権。寄託を受けて、龍谷大学でお預かりして図書館で保管されている。

安遺墨の中で、「獨立」の書、なぜ 広島県安芸高田市 願船寺 が持っておられたのか？

広島県安芸高田市「願船寺」の祖父が旅順監獄の看守をされていた。

安からいただかれたか どうかは分からぬが、 寺では直接いただかれたといわれている

庚戌(こうじゅつ)(1910 年) 2 月に 書かれたもの。これの説明のものあり。説明用紙を配布
三幅の遺墨は 岡山「乗船寺」の出身で 津田海純師が持っていたもの。

補足説明 をしてあげて ソウル事務局長解説。・・・。

この三幅の遺墨は「浄心寺」津田海純師 教誨師をされていた人が持ち帰ったもので、
それと写真があります。写真は 67 点 一括して 所蔵されていた。

そのまま「願船寺」に置いていたらダメになる。よく ここまで 保存できた。

簡単でしたが・・・ 大恩が 感じられます。

遺墨は 学生に説明するときに 教育 あれから
こちらのほうへ

ハングルの説明 安重根の 遺体がお墓に運ばれる写真です。

郊外の山に連れて行く様子の写真で 貴重なもの。

安重根の 遺体を どこに 埋めたか 定かでない。遺体が出るときに写真を
撮れたかどうか分からないが でてから 三時間 経った。

あまり遠いところではない。近くを調査されたが 領けないわけではない。

偶然に・・・、 千葉十七、

写真観察 まなべ裁判長 みぞぐち検察官 通訳 わたなべ 書記
イボロ イボロ

玄関 正面に 貼ってあったほうが良い

ひとことコメントを

【ソウル安重根義士崇募会理事長 金滉植 氏】

幸い レプリカでも ソウル安重根義士記念館 展示されていますので 良かったと思うが
ここにきて こういう本物の 本物と認められる こういう写真を見ますと 特に感激
私の心では これも 韓国の記念館にも 本物の写真を持っていたらと いうこと
思うと・・・ 素晴らしく 管理 されているところをみて 意義あり

【小松社長】

これがね 現在に蘇らせて これを世界人類のために活かすという視点が全く欠落している。
これが 今回の見せていただいた 一番の課題だと思う

【李惠筠 安重根義士記念館 事務局長】

18 際の 立命館大学 に 昨日のこのように 真筆を解説して 無完了 胸がいっぱい

【龍谷大学図書館館長 道元徹心 氏】

館長挨拶 本日挨拶 当図書館 ご来館 光栄

僭越ですが 記念品を贈呈 お受けとりくださいませ。 バチパチ

ソウル安重根義士崇募会理事長 金滉植 氏 、 小松社長
私達ももってきている 後で 上で・・・ 小松社長、五味様 、東郷さま 記念品受け。
ありがとうございます。
図書館 一階の入り口で 閲覧参加者一同の記念写真。

龍谷大学 響都ホール アバンティホール I 部 開会挨拶 基調講演

韓国語で案内 開会予告? ブー ブザー音

(総合司会)本日は 第6回日韓国際学術会議に お越しいたしまして ありがとうございます。

ただいまよりはじめたいと思います、 今 アジア市民としての共生を探る

副題を 欧州構想の先駆け 安重根「東洋平和論」の 21 世紀的再評価

というテーマで今回の企画をいたしました

それではまず 開会に先立ちまして 挨拶をいただきます。

龍谷大学 入澤孝学長より よろしくお願ひいたします。

<第6回日韓国際学術会議> (龍谷大学アバンティホール) 総合司会; 角岡賢一(龍谷大学 教授・安重根東洋平和研究センタ ー事務局長)		
挨拶 龍谷大学学長 入澤崇 氏 (5 分)		多くの日本人は安重根をしらない。 「自省利他」(じせいりた)というメッ セージを掲げました。 安の遺墨は日韓交流の「礎」となる

挨拶 : 龍谷大学学長 入澤崇 氏

龍谷大学 学長の入澤でございます。本日ここに、第6回 日韓国際学術会議が開催されますこと心よりお慶び申し上げます。岡山県 笠岡市の浄心寺様から、安重根の遺墨が龍谷大学図書館に寄託されたのは1997年、平成9年のことでした。その後2011年3月に、龍谷大学図書館が今回の主催者でもある安重根義士記念館との間で、学術研究・交流に関する協定を締結いたしました。本日、この日韓国際学術会議は、その協定に基づき行われるものであります。

多くの日本人は、残念ながら 安重根について 詳しい事は知りません。

伊藤博文を暗殺した人物であることに焦点が当たりすぎて、安重根が東洋平和論を表し、彼が東洋平和について深い思索を巡らせていた人物であることは殆ど知られておりません。もちろん、暗殺は許されることではありません。しかしながら、平和を希求する安重根が、何故にあのような行動をとるに至ったかの検証は、今後の友好的、日韓関係の構築に大きく資するものと考えます

龍谷大学は、本年 創立380周年を迎えます。記念すべき年にあたって、私は学長として学内外に向け、「自省利他」(じせいりた)というメッセージを掲げました。

自分は果たしてこのままで良いのか、自分の考えは間違っているのではないか、自分に欠けているも

のは何なのか、このように自分自身を省みること。「自省」で、自己変革。さらには創造できない生き方へとつながっていきます。

当たり前のことですが 人間は一人では生きていけません。自分という存在は 他者との関係性から成り立っているものであり、他者との関係性を重んじることで、温もりのある暮らしが成り立ちます。

他者への思いやりを発動すること、「利他」、が人生の質を高めていきます。

国家間の関係においても、「自省利他」は欠かすことができません。しかし、残念ながら現代社会は、対価的感情が渦巻き、各方面で人権抑圧や差別的事象、紛争が生じています。

これらの問題を、最先端の科学、人口知能やロボットが解決できるのでしょうか

人間の有する自己中心性に、人間自身が光を当てない限り、現代的課題は容易に解決できるものでありません。龍谷大学は、将来に向けて平和のプラットフォームを目指します。

個人の利益、組織の利益、国家の利益、自民族の利益、そうしたものよりも「衆生の利益」、生きとし生けるものの利益を考え、行動することのできる人間を育成していきたいと思っております。

キリスト教徒であるカトリックの安重根が、旅順の監獄で、ずっと 浄土真宗の僧侶 津田海純に託した遺墨は、未来に向けた日韓交流の「礎」となりうるものです。

本日、この後、公務がありますため、私は退席をいたしますが、今日、明日と繰り広げられる日韓国際学術会議が稔りあることを心より願っております。開会にあたり一言御挨拶もうしあげました。

本日は ご参集たまわり 誠にありがとうございました。

主催者の挨拶 龍谷大学図書館長 道元徹心 氏（5分）		別紙 予稿集あり
----------------------------------	---	----------

予稿集の通りに挨拶話を発表されました。

11月2日(土) 主催者の挨拶 ソウル安重根義士崇募会理事長 金滉植 氏（5分）		韓日の「碩学」(せきがく) 皆様が参加される国際学術会議をこの京都の地で持たれることを意義深く思います。 韓日の関係、外交的葛藤へと拡散していくこと もどかしい。安重根 世界平和に対する熱望を醒ます定義に・・・
---	---	--

ソウル安重根義士崇募会理事長 金滉植 理事長閣下 挨拶

安重根義士 ハルピン義挙より 110 周年を迎えまして、韓日の「碩学」((せきがく)の意味は学問が広く深いこと。) 皆様が参加される 国際学術会議を この京都の地で持たれることを意義深く思います。

安重根義士は 東アジア情勢が渦巻いていた 1909 年 10 月 26 日 ハルピンの駅頭で 伊藤博文を射殺し 旅順監獄に収監されました。そして、 東北アジア平和構想を込めた 未完の東洋平和論 を書き残し、1910 年 3 月 26 日 31 才の御年で殉国されました。

ところで 最近の 韓日関係を 察しますと 安重根義士が 東洋平和論を 著述された時代ほど 不確実性が持続されています。戦後 過去を超えて 未来に向かっていた 両国関係が、植民地時代の 強制 徴用 問題に対する賠償判決を巡って 意見を示しています。

このように芽生えた小さな不信感が、輸出規制、さらに GSOMIA 協定破棄に至るなど、外交的葛藤へと拡散していくこと もどかしいことばかりであります。

このように厳しい状況下で、今日と明日、二日間、韓国、日本の 名簿にある 学者の皆様と共に eu 構想の先駆けである、安重根義士の東洋平和論について、21 世紀的視点から見直す国際学術会議を持つことができることを、とても幸いと思っております。このたびの国際学術会議を通じ発表される、韓日学者たちの 論稿を基に 東洋平和論に関する より深い 議題ができる そのような場となればと思います。 これを通じ、誓って遠い両国が平和と繁栄に向かって、共に進んでる小さな ひとつの土台 肥やしとなり この時代に生きてる 構成員みんなに 安重根義士が あれだけ願って 東洋平和 さらに 世界平和に対する 熱望を醒ます 定義となることを 望んでなりません。

そして このたびの 国際学術会議に 喜んで 参加され、発表と討論を担当してくださる 皆様と、そして、困難な中でも このような会議の開催に 大いに助けていただきました

龍谷大学 安重根東洋平和研究センターのセンター長 李洙任教授をはじめとする 安重根東洋平和研究センター 関係者の皆様に心より御礼を申し上げたいと思います。

最後に、今日の国際学術会議を 物心両面から支援していただきました 小松昭夫 人間自然科学研究所理事長様と、とりわけ 多忙な中でも今日の会議に参加していただきました 来賓の皆様にも心より深い感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

主催者支援の挨拶 駐大阪大韓民国総領事館 総領事 吳泰奎 (オ・テギユ) (5 分)		当時の日本は 安義士の 望みとは うらはらに 自国を捨て西洋のような 帝国主義へ突っ走り アジアの多くの 国を 侵奪しました。
---	---	--

主催者支援の挨拶 駐大阪大韓民国総領事館 総領事 吳泰奎 (オ・テギユ) 氏

挨拶 皆様こんにちは 私は 総領事 吳泰奎 (オ・テギユ) でございます。

もともとは 日本語でと 挨拶と思ったが 素晴らしい通訳で 韓国語で話す

改めて 駐大阪大韓民国総領事館 総領事 吳泰奎 (オ・テギユ) と申します。

まずもって 安重根義士の 東洋平和論と関連しまして 第 6 回 日韓国際学術会議のために努めていただきました 龍谷大学、安重根東洋平和研究センター、と韓日国際学術会議 共同準備委員会、関係者の皆様に感謝を申し上げます。

そして 基調講演と 記念講演をしていただく 金滉植金 ソウル安重根義士崇募会理事長様、小松昭夫、小松電機産業株式会社代表取締役、人間自然科学研究所 理事長様をはじめとする 韓日両国の 専門家の皆様、 安重根東洋平和論に 関心をもちこの場に参列していただきました参加者の皆様にも 感謝の挨拶を申し上げます。

皆様もよくご存知だと思いますが、 いま韓日関係は とても厳しい状況にあります。

昨年 10 月末 韓国大法院による 強制動員労働者賠償判決を契機で 表沙汰となった 歴史の葛藤が・・・ 経済 安保 問題にまで 飛び火となって 葛藤の幅が大きくなっています

このような 中で 10 月 22 日に 新天皇の即位をお祝いするために訪日された イ・ナギョン（李洛淵）国務総理と安部晋三総理が会談を通じて、これ以上の葛藤は望ましくないというところに評価され 葛藤解消のための新しい流れがつくられはしないかと、期待感が 慎重に出ている実態であります 政府間の冷たい関係の中でも 幸いなことに 文化や学術等を媒介とした 民間 の 交流は比較的 着実に 活発になされております。

とりわけ 第三の韓流ブームを基礎とした両国 若者の交流は 暗闇の中で 一筋希望を与えています。 安重根義士を接点としている 韓日国際学術会議が 6 年間も絶えることもなく続いている 韓日の専門家が集まって議論する 場があるということは 非常に大きな意義があると思います。 韓日関係が難しい時期であるだけに なおさら むしろ 安重根義士の東北アジア平和に対する 哲学と構想は なおさら 注目を受ける必要があると思います。

安重根義士 は 当時 西洋の帝国主義勢力が東洋へと押し寄せてくるとき 東洋人の段列(後方支援)を強調されました 朝鮮と日本 清 三国の対等な立場での 連帯が必要だと主張され 多様性の中での 統一性を 力説 されました

残念なことに しかし当時の日本は 安義士の 望みとは うらはらに 自国を捨て西洋のような帝国主義へ突っ走り アジアの多くの国を 侵奪しました。

この傷は今も 東洋三国をはじめとする アジア 各国に 色濃く残っています

安重根義士の平和構想は 1990 年来 冷戦崩壊後 東北アジアで ときたま 論議され試みられた 東アジア地域共同体構想とつながるものと思います。

110 年前に安重根義士が獄中で定義された「東洋平和論」は 東北アジア 各国が 歴史問題で葛藤している今日において、地域の平和づくりのための 実践的指針として 遜色ないものと思います

おそらく この場の皆様も そのような ことに注目され 今日も 安重根義士 の 思想と構想をリンクし論議される場を 作られていないかと思ひ図ります。

この 国際学術会議が 未完成の東洋平和論にとどまった 安重根 の 東北アジアの平和構想を補い 完成させていく 長い道のりの中で 欠かすことのできない 重要な一里塚となることを 期待します 今日 この国際学術会議が 冷たい韓日関係の中に 暖かい風を吹き込むことを期待します。

私の挨拶を終わります。

主催者事務局の挨拶 李洙任・ 安重根東洋平和研究センター長 (5 分)		安重根の遺墨 三本 寄託されたのは 1997 年。私が着任 1996 年に着任す る 1 年後に静かに寄託されました。 後一年で 龍谷大学を退職します。 別紙 予稿集あり
--	---	---

予稿集は用意されていましたが、下記の趣旨で挨拶をされました。

安重根東洋平和研究センター長 李洙任 教授 挨拶

みなさま こんにちは 本日はご多忙のなか 会議参加 心から御礼 申し上げます。

ソウル安重根義士崇募会理事長 金滉植 様、 個人の熱意とご尽力 そして 支える 安重根義士
記念館 事務局長 李惠筠 様 、 学芸員 の 様、 韓国側の 強力な精神的な協力に
基づいて 頑張れた

日本側も 日韓関係 このままではダメだと 多くの団体が ここに記載されています 立命館大学コ
リア研究センター、コリア NGO センター、・・・・・・・・・・、 この団体は 旧来の友情をあたためて
成果としての団体で ご協力に感謝。

そして、 今日の 厳しい状況の中で 島根の小松電機 小松社長様より
多大なご支援をいただくことになりまして 心から御礼を述べます。

安重根の 遺墨 三本 寄託されたのは 1997 年。 私が着任 1996 年に着任する 1 年後に静かに
寄託されました。遺墨の所在を見つけられた 三島様 中村様 いろんな方にお世話になりました。

遺墨がひっそりと保管

偉大な先生 図書館から 100 年の眠り 案重根の精神を蘇らせた

図書館長 平田先生 かなり踏み込んで 韓国と大学で協賛しました 遺墨の展示を韓国で開催

このような活発な活動というのは 龍谷大学でしか できない

市場環境 東アジアの未来 多くの学生が韓国にでかけて、

日本 韓国 北朝鮮 調べて 教科書では知り得ない 新たな事実を発見できた。

優秀な学生 韓国に 三回 学生を 実際に韓国に

私個人 日韓関係がよくなると思っていたが こんな風に悪化するとは 思いもよらなかった

後一年で 龍谷大学を退職します

この後 若い世代 が 活気づいて 引き続いていけたらと思います。

私の挨拶とさせていただきます。

(参考 ホームページより転載)

龍谷大学社会科学研究所付属「安重根東洋平和研究センター」は何を目指すのか

本センターは、「日韓未来平和交流事業の学際的研究—龍谷大学所蔵の安重根の『遺墨』『丹波マンガ
ン記念館』に代表される歴史・文化資産の調査研究とその有効利用—」をテーマとして、2013 年 4 月 1 日
に発足しました。この発足に先立って、「韓国併合」の 1910 年から数えて 101 年目である 2011 年 3 月
27 日、龍谷大学主催で「日韓交流、新たな時代へ——日本における安重根関係資料の存在意義——」と
題された講演会が開催されました。本講演会は、龍谷大学図書館と安重根義士記念館との間で学術研究・
交流に関する協定書締結を記念して実施されたものです。本協定により、資料活用と教育・研究の発展を
目指すとともに、日本と韓国（以後、日韓とする）友好関係の強い絆を築くことが両機関によって確認さ
れました。本研究は、本学所蔵の「安重根の遺墨」や強制連行の歴史を刻印する「丹波マンガ
ン記念館（京都市右京区）」などに代表される日本に埋もれた日韓の貴重な歴史・文化遺産について歴史的、経済かつ
政治的、文化的側面から学際的に解明していくことを目的としています。日韓の足跡や交流の実像は近
年かなりわかってはきましたが、社会に浸透しているとは言い難く、貴重な歴史・文化資産が日本各地に
埋もれています。その理由の一端は、明治維新以後の日本の近代化で、朝鮮と朝鮮人に対する偏見と蔑視
感情が高まり、学校教育においても近代化以前にあった朝鮮との豊かな交流のことが意図的にかき消さ
れてしまったからです。戦後においてもその問題は解決を見ないまま現在に至っています。近年は日韓

だけでなく、日中韓においてもかつてないほど緊張感が高まり、不必要な摩擦が生じています。そのような時代だからこそ、両国の関係の実相を知り、そこから教訓を学びとり、若い世代への教育に反映することが重要と言えます。

11月3日(日)大宮キャンパス

13:00～17:30 第Ⅲ部：ラウンドテーブル「日本は“安重根”とどう向き合えばよいのか—安重根裁判、東洋平和論、そして東アジア共生社会の展望—」

龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室、

通訳者；オム・チャンジュンさん、アシスト森さん

コーディネーター；重本直利（市民科学研究所専任研究員）

11月3日(日)大宮キャンパス 13:00～17:30 第Ⅲ部： ラウンドテーブル「日本は“安重根”とどう向き合えばよいのか—安重根裁判、東洋平和論、そして東アジア共生社会の展望—」 龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室、 通訳者；オム・チャンジュンさん、 アシスト森さん コーディネーター；重本直利 (市民科学研究所専任研究員)	  挨拶 李洙任・安重根東洋平和研究センター長 (日本語「平和」→中国語「和平」しかない。) 挨拶 ソウル安重根義士崇慕会理事長 (2012 国務総理の時、ドイツを訪問、EU 欧州連合がノーベル平和賞を受賞)。
--	--

開会挨拶 安重根東洋平和研究センター長 李洙任 教授

みなさんおはようございます。本日 ご参加ありがとうございます。昨日はアバンティホールで多くの人が参加くださり有意義な会議となりました。

本日は意図的に少人数で、もう少し踏み込んだ対話を実現したいとの思いで、大宮キャンパスでやることにしました。昨日の対話 対談の中で、興味深い点があった。昨日参加されていない方に、情報を共有したい。安重根が 旅順の刑務所で執筆した 東洋平和論、この平和という言葉は、中国語に存在してなく、和平というのは中国語に存在するが、平和というのは どこから彼の脳裏に浮かんだのか、実はこの事実 に対しましては 昨年 うちの研究センターの研究員でいらっしゃる 中村ひさし先生が気がつかれた。偶然に 先週 私 韓国にでかけて報告しましたが、 韓国の学者から 中村先生とは話をされていないけど 偶然にこの平和という概念が、中国語に存在していないことに 気がつかれた安重根が 日本から 情報を得て 平和という概念を理解していたのか、それとも ヨーロッパから平和という概念を理解していたのか、 韓国の人は 日本から学習をしたという解釈をすると 若干憤慨されるようです。そして、最後に皆様をお願いしたいことは、安重根 は どこから 学習したのかは問題ではなく 彼が本質的に狙った平和という概念を大切にすることが重要なので 本日の会議を経て平和追求のために安重根がなしえなかった意義を私達が追求するということにしたい。

ソウル安重根義士崇募会理事長 金滉植 理事長閣下 挨拶

まず ここにきてお話を聴きますと 明治初期に造られた建物。ここにきてシンポジウムできること嬉しく思っています。昨日 私 御挨拶と基調講演で、EU のこともお話しした。今日の挨拶は 簡単にしたい。私 国務総理の時 2010 年 10 月 10 日に ドイツ訪問したときに、EU がノーベル平和賞の受賞することが決まったと聞いた。そのときは自分がノーベル平和賞を受賞したように嬉しかった。

その受賞理由は、きのうの基調講演でもお話ししましたが、まさに平和と繁栄に向かった、国、民族、宗教、言語の違いを乗り越えて共に歩む共同体としての EU、これは人類最大の傑作であると 昨日も申し上げたが、このような理由はこれは EU が揺れているときだけに、EU を励ますために平和賞が受賞されるということで、とても意義深いと思いました。

理由が先行すれば、東アジアも、遠くからモデルを求め、学び、参考にして、日本、中国、そして韓国が隣国として共に平和と繁栄に向かうことができる。そういう良い機会として、教訓として得るものが多いと思います。

今の国際情勢から申し上げますと、とても難しい、そして遠い課題であるかのように見られますけど、今日のようなシンポジウムのような私達の小さな努力を積み重ねていけば、いつかはその日を期待できるとの希望を持ちたいと思います。そのような意味におきまして、今日ご参加された皆様に深く感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

総合司会者 司会 を 研究所の重本直利先生に 重本直利（市民科学研究所専任研究員）

コーディネータの重本です まず進め方について説明します。

日本側報告、 韓国側報告、 三名の方。 それぞれ 30 分程度の説明 その後 休憩 討論 東郷先生その後 質疑応答にします

ラウンドテーブルという形式 初めての試み なるべく質疑応答の時間をとりたい

皆さんには 質問用紙を配布している 質問用紙の提出をお願いしたい。・・・

ラウンドテーブル メインテーマであります 日本は“安重根”とどう向き合えばよいのかというタイトルについて勉強させていただきます

第六回目ということで、日本側 安重根について 今までの蓄積をふまえながら 安重根義士をどのように見直すか あえて重いテーマを設定した。

こちらに 安重根義士の遺墨「獨立」を だしましたが、安重根義士の検討には 「獨立」の書が大事だと思っている。 獨立というのは、 政治的 法律的意義にとどまらず、 歴史 経済、社会 など、さまざまに 獨立の意味があると思っています。

そういうことの内容を お互いに 尊重しあう 尊敬しあうことが大事だと思います。東洋平和論の再評価を掲げてテーマ設定。東洋平和論の意味を獨立のことも踏まえて議論を深めたい。 それでは 戸塚先生 よろしく申し上げます。

13:15～15:15 日本側報告者；戸塚悦朗氏 (弁護士、元龍谷大学法科大学院教授)、＜通訳込み 40 分＞	 日本には表現の不自由がある。村山談話が安倍政権で抹消されている。 別紙 予稿集あり	 重本先生 通訳者
田中宏氏 (一橋大学名誉教授)、 ＜通訳込み 40 分＞	 幼保の無償化は朝鮮は外す事に対しての日比谷の抗議集会に参加した。 日本の常識と世界の常識が違う。 別紙 予稿集あり	
韓国側報告者；徐泳得氏 (韓国航空大学校航空法学科兼任教授) ＜通訳込み 40 分＞	 予稿集への準備をしていなく、昨夜一時まで慌ててメモを書き上げた。 (講演録は別途予定)	安の息子に伊藤の息子が謝罪する。 歴史を知ることが大事である。 韓国人は日本が真の謝罪をしていないと思っている。謝罪ということ ① 謝罪の対象、②心からの反省

韓国側報告者；徐泳得氏（韓国航空大学校航空法学科兼任教授）

みなさんこんにちは、 弁護士・崇慕会理事 徐泳得です。 安重根の研究をしてきました。

原稿が提出できなかったということですが、 実は記念館側から 行って話を すれば良いとしか聞いてなかったの（会場より 笑い） 申し訳ないです。

昨夜一時まで 手書きですけど 一応書きました。安重根は 軍人であり 教育者であり 思想家でもある、その人の研究に尽力されている龍谷大学の李先生、皆様に感謝します

龍谷大学 韓国の東国大学 姉妹大学と聞いております

2階にあがるときに 東国大学の 教授の講演があるという横断幕がご案内をみることができました、韓国のソウル 東国大学 の 道路を挟んで向かい側 左に新羅ホテルがあります。

そのホテルと 東国大学との間に 奨忠壇公園（チャンチュンダンこうえん）★があります。

公園は明成皇后 日帝に暗殺される時に、それを防ごうとして殉国された軍人などを慰霊する施設です。

日帝は その 奨忠壇の碑を 壊して(伊藤博文を祀る)「博文寺」を建てました。

(安が処刑されてから) 30 年後になります

1939 年に、総督府の外事警察 あいばきよし(相場清)「朝鮮総督府嘱託(通訳)」の斡旋で、安重根の息子と伊藤の息子が会って、安の息子が、父の罪を、伊藤の息子に謝罪する儀式を行いました。

この外事警察は、30 年間も安義士の家族の後を追っていました。

このことがあってから、その息子は親日派とされて、父の意思に逆らった結果となり、結局、外国をさまようことになりました。言い換えると、日本は、安義士を死刑にただけでなく、その家族も、事実上、死刑にしたということもできます。このような歴史を知っている日本人は、ごくごく希れだと思います。このように歴史をきちんと理解をすることが、相手を理解して、さらに言えば平和を造る第一歩ではないでしょうか。

今、韓日関係は非常に難しい状況にあるが、両国民は、謙虚な豊かな時代感覚を持っています。

❖韓国人は、日本が本当の真の謝罪をしていないと思っています。

日本側は、何度も謝罪したつもりなのに、韓国側はなんで繰り返し、繰り返し、謝罪を求めてくるのか、

さらにいうと、このように韓国が何度も謝罪を求めてくる時は、何とか口実をつけてお金を求めてくる。ところで、謝罪と言う言葉には2つの重要なことがなければなりません。

① ひとつ、何を謝罪するのか、謝罪の対象ですね。日本が謝罪したということは、原則的に時代の制約 についていろいろと強制力を使ったことはしないということです。それにも係わらず 日本側は そのような 制約や 強制力を 使った 過去の歴史を 否下 するようなことを繰り返している。そのうえで 徴用工の問題とか 慰安婦についても このようないかなる勢力も 行使したことはない と 否定をしています

② ふたつめとしては、謝罪というものは 心からわき出る反省というものであり持続されるべきものである。一度謝罪したからといって その謝罪を変更するようなことがあったら それは謝罪したことになる。

過去のことを反省したといいながら 慰安婦は存在しなかったとか 安重根はテロリストだというのは 謝罪したことに繋がらないと思います。

さらにいうと 日本は 昔の問題であり 帝国時代の問題だ、おじいさんの時代、ひいじいさんの時代の問題である。戦争責任のない今の時代に 引き続き責任を求めることは 間違ったことだと。

しかし、日本では それは、おじいさんの時代かもしれないが 韓国では まだ元徴用工、元慰安婦の方が生きておられます。日本では 過去形の言い方をするかもしれませんが 韓国ではいまだ現在進行形だということです。

今 話題になっている徴用工の問題ですが、振り返りますと 1997年 始めて 大阪地裁で裁判が始まりました。韓国では 2005年になります、四名の当事者が ソウル中央地裁に 新日鉄住金を相手に訴訟を始めました。およそ日本で裁判がはじまって 20年近く、韓国で始まって 15年近くになりますが、去年 始めて 徴用工判決が おりました。

その内容は 一個人に係り 慰謝料として 一億ウォン(約 1000万円)を支給せよという内容でした。

一億ウォンというのは 決して大金ではありませんし、また、四名のうち 裁判の途中で三名は亡くなっていました。

日本では、この判決について国際法違反だ、さらには 1965年体制の崩壊だと言われました。

判決はしかし 1965年体制を崩壊するようなものではありません。

その体制を維持することを前提に、個人に慰謝料を支給せよという要求なのです。

例え 両国間で 支給に応じて 協定を結び その協定によって 個人の請求権に制限が加わるということが事実だとしても

しかしながら 国際法でも 厳然と個人の権利に対して 国家が制限を加えることはできるのか、そういったところには明確ではありません。さらに この問題は、個人の賠償の問題ではなくて、人権にかかわる問題だと。

国際法の遵守を求める日本の政府が、この判決を執行するために送られた文書の通達すること、伝えることを拒否しています。

その通達を原告たちに伝えないことは、送達に関するジュネーブ協定の国際法違反ではないでしょうか。結局、韓日問題はその根本的な見方の違いが存在しておりますので、互いを理解することで解決を模索しなければならない。

私はこの解決策は、安重根自身から 学べるのではないかな。

安重根は、どうして伊藤を撃つしかなかっただろうか。

安は東洋平和を造っていましたが、伊藤を 除去しない限り それは構築されないなと気づいていた。伊藤にとって 東洋平和とは、外国の脅威を日本を真ん中に、列強から保護するために周辺の国々を保護国家にすることということです。 しかし 安のそれは、 三国の主権を、日本 中国 韓国の地位を尊重するなかで 連合することができる。 この現実的であり、また正当性のある論理であります。結局、このような日本の、伊藤の帝国主義的な理論によって、一番の被害を被ったのは日本ではないでしょうか

そんなことがあっても子孫たちに ふくそう を 残すわけには いきません。日本の帝国主義によって 最も 大きな被害を被ったのは 日本の善良な市民たちです。

みなさん 日露戦争の戦費はいくらだったと思いますか 当時のお金で、

17 億 2 千万円 で、当時の歳入の 5 倍です。

ロシアから 賠償を受けることができなくて 日比谷公園で 近くでは神戸で 暴動が起きました。沢山の人が 死にました。

悲しい歴史ですが、広島と長崎に 人類最初の原爆事件がありました。

広島で 8 万人あまり、長崎では 4 万人くらいが善良な市民が即死しました。

その中には韓国人も沢山含まれています。

もっと悲惨なことは、原爆の被害国だということに、平和を無視したとされ同情を受けられないことです。このようにいうと、日本の帝国主義によって、もっとも被害を受けたのは、韓国朝鮮人ではなくて、日本国民だということです。ですから 戦争はだめです。平和を求めるべきです。その方法論として 安重根義士から学ぶべきではないでしょうか。

この平和のために最も重要なことは、相互理解と信頼をつくることです

日本は過去の歴史について、前向きな姿勢を示す必要があります。

安重根義士の裁判記録を公開すべきだと思います。遺骸の居場所が分からない、遺体埋設の場所が分からないが、その発掘にも日本が協力しなければならない。徴用工の被害をいまだ捜している人達がいいます。沢山の人が悲しんでいます。そういった問題に対して、日本こそが先頭にたって問題を解決していかなければならない。

徴用工の問題も、慰安婦の問題も 日本国民も同じ被害者ではないですか

日本のあさましい 過去の傷を癒やすためにも 日本政府が先頭に立つべきです

そして 若者たちには 歪曲された歴史教育をしてはいけません

例えば「創始改正」について、韓国人たちが日本人になりたくて、そのように願っていたんだという誤解をずっとしています。家の家系を重視する韓国では、特に長男たちはその「創氏改名」を回避しようとどれだけ努力したのか。

1905 年の日韓条約になるんですが、これは韓国では 毒約とさげすんで言っているんですけど、日本では保護条約といって、あたかも保護してあげるんだという、あたかも美化された そういった言葉遊びはやめたほうがよい。

日本の歴史が大切であるならば、韓国のそれも大切ではありませんか

昨夜の晩餐会がありましたが、その場で 安重根の遺墨を貸し出す時に

龍谷大学の中で 沢山な反対があったというお話を聞きました。

貴重な資料だということで それを 大切にするという気持ちは良く分かります。

そのように、大切な資料だとすれば、例えば 35 年間(日本が韓国を)支配してて、 韓国朝鮮から持って行かれた韓国の国宝級の文化財、例えば さきほど戸塚先生がおっしゃった「儀軌」もその 1 つなんですけど それを奪われた 韓国人の気持ちも考えていただけないでしょうか。

私 京都は 始めてです。 今朝ですね 稲荷神社(伏見稲荷大社)に行ってきました。

私はですね、この外国に行って、なんかこう 自分の家にあるような、そういう気持ちに包まれたのは初めての経験です。

本質的にも、文化的にも、とても近いです。多くの点で同じものを持っています。

今後 日韓 両国は 緊密に協力しなければならないと思います。

なぜならば 北朝鮮と中国は 核を持っています。 韓日は共同で対応しなければならない。共同運命体だということができます。

日本は高度な巨大産業が発達しています。韓国では IC を中心とした先端産業が発達中であります。分業と協業が求められています。

特に いまアメリカが 世界の警察をやめようとしているところで、日本を中心として 韓日の関係が発展していくことがとても重要だと思います。

徴用工判決後 日本は 輸出規制を 用意しました。 不活性ガスの輸出規制だと

これは 韓国の誇りでもあります サムスン電子への生産抑制 特別な許可制

日本を好きだという多くの韓国人たちも含めて このことについては憤慨しましたね。

65 年の国交正常化 当時は 多くの人達が反対していました。

当時の両国の相互の必要によって、そしてもうひとつはアメリカの圧迫によって、国交が結ばれましたね。

そういう経緯があるので、かなり多くの 65 年体制に批判する人達が残っています。

韓国の現政府は、現政権は、そのような人達を財源にすることにネットをだしています。

日本は、このような 韓国の困難について 理解して欲しいと思います。

プラス＝輸出規制ではなくて 韓国、韓国政府の困難について 共に解決し 過去の歴史について 共に努力して解いていく 積極的な姿勢を示していただきたい

安重根の義挙 110 年 過ぎた、いまだに韓国と日本の間に葛藤があることは、非常にもどかしい。

日本はこれまで韓国に対して、経済的に支援したり、協力したりしてきたことはかなりある。

しかし、異国を侵略し、この国を植民地化するのは、すごく不法なことです。

不法のなかで、ある種の恩恵が与えられるとしても、その傷が癒やされることはないと思います。

今日の韓日問題、両国政府が共に努力すべきなんでしょうけど、 問題を発生させた日本のほうがより積極的にこの問題に取り組んでいくべきだと思います。

ありがとうございました。

★「東国大学校とホテル新羅の間に所在する。本来の奨忠壇は、現在の奨忠壇公園のほかホテル新羅、韓国国立劇場、自由センター、ソウルタワーホテルを含む範囲の規模であった。公園内にはソウル特別市有形文化財第 1 号に指定されている奨忠壇碑があるほか、敬老堂と体育施設、野外舞台などがあり、泗溟大師をはじめ、李儁、李漢応、柳寛順の銅像が立てられている。 奨忠壇公園は、閔妃が暗殺された乙未事変の際に大韓帝国に殉じた忠臣や烈士を祀るために、1900 年 9 月に高宗が、奨忠壇という祠堂を建立したことに始まる。高宗は近衛部隊である御營庁の分署でソウルの南を守る南小營の場所に奨忠壇を構え、春と秋に祭祀をおこなった。 韓国併合後の 1919 年に奨忠壇の一帯は桜の木が植えられ、日本風の公園に改装された。公園には 1932 年に伊藤博文のための寺である博文寺が、1937 年には第一次上海事変で死亡した日本軍の肉弾三勇士の銅像が建てられた。日本の敗戦後、博文寺と日本の軍人の銅像は撤去され、朝鮮戦争では祠堂に付属する建物が破壊された。1959 年に清溪川が覆蓋された際に撤去された水標橋が、新營洞に暫置されたのち 1965 年から移築保存されているほか、1969 年には公園内の迎賓館の中にあった奨忠壇碑が、水標橋の横に移された。 1957 年 5 月 25 日、第一共和国期の与党自由党の独裁を糾弾するために、野党である国民主権擁護闘争委員会の主催で、ソウル市民 20 万人余りが集まった野党時局講演会で、与党と結託した暴力集団による奨忠壇集会妨害事件と呼ばれる政治テロが発生した。奨忠壇公園は 1971 年の韓国第 7 代大統領選挙前の 4 月 18 日、市民約 100 万人が集まる中での、金大中候補と朴正熙候補の演説対決でも有名である。選挙では朴正熙が大統領に当選したが、金大中は「朴正熙に負けたのではなく、李厚洛に負けた」と語った。その後、維新憲法が発布された。奨忠壇の最初の位置は失われたが、現在の奨忠壇公園の南端のこども野球場の向かい辺りと推定されている。公園の入口に立つ奨忠壇碑の「奨忠壇」の文字は、純宗が皇太子であった頃に書いたものである。碑の裏面には閔泳煥の文章が刻まれている。

歌手の裴湖（ベホ）が歌った『霧の奨忠壇公園』はこの公園を素材にした歌として有名である。」

【質疑内容】メモ的 詳細は、小林様撮影のビデオあり

・質問 徴用工問題 現金化された場合の問題点

・除(ソ 先生) 一人あたり 1 億ウォン×4 名分

両国政府が対話で解決すべき問題

・田中先生 個人の権利

・東郷先生 個人の請求も全部終わりだという判決

65 年協定 西松判決 法的 人道的

・戸塚先生 東郷先生の危機感に感銘を受けた

書籍「徴用工問題とはなにか？」戸塚悦郎著 に書いてある

❖ 除先生 「安重根」教育重視

徴用工 お金ではない。心の込められた お詫びの言葉が聞きたい

・質問 小松社長 世界緊張情勢の中 東西冷戦の中で 今更 再評価とはなんだ
むかっとくる 上から目線だ

政治家に利用されている 安部さん 4000 万円 日本の世論 7 割が利用されている
「安重根は」ローマ法王のところに行きましょう と言っていた

国連 → 国民国連 国際連合 外務省が名前を付けた

日本の(常任理事国) ブータン一国のみ賛成

1991 年 東大 尾本先生 自己ガス化現象

韓国の変化

・東郷先生への質問

民主化 全面的に賛成ですね

韓流現象「冬ソナ」

・田中先生

今だけ 自分だけ 金だけ

東京裁判

朝鮮学校、ヘイトスピーチ 公の機関が バツとやる 差別がまかり通っている

外国人の社会保障

小松社長 ・竹島 GHQ マッカーサーライン → 李承晩ライン

地政学

地政学とは 過去の学問

731 部隊とは 731 部隊の名前の由来は 東郷先生 応えられず

東大もと暗し

★ 戸塚先生

東京裁判 を 忘れさろうとしているのか

70 周年 安部談話

小松社長

植民地支配、ボタンの掛け違いはどこからか・・・

・戸塚先生 秀吉の朝鮮侵略

近現代からでは、吉田松陰がアメリカの船に乗り損ねた。

(安生元年 1854 年 ペリー艦隊が伊豆の下田港にきたときに、吉田松陰と金子重之助の二人が、投錨中のペリー艦隊めざしてこぎ出した小舟は、付近の漁船を盗み出したもので、櫓ベソがなかった。漁師は、夜は用心のため櫓ベソを抜いてしまっている。

二人は、褌を外し、櫓をふなばたに縛り付けて漕いだが、暗夜の風浪は意外に激しく小舟は翻弄されて褌は流され、着物の帯を解いてそれにかえた。ようやくペリー艦隊に着いたが、言葉も通じず、やっと思いは伝わったようだが、日米和親条約を結ぶことに成功したばかりの艦隊から、「しばらく時期を待ちなさい」とボートで海岸に送り返された。疲れ果てて粘ることもできなかったと反省。「運命を狂わせた櫓ベソ」といえるかもしれない。)

(昭和 41 年 11 月 20 日発行 青年の山脈 維新の中の生と死 村上兵衛著より)

これについては、小松社長より 孫文の言葉「西洋の霸道より、東洋の王道」を進むべきと後日にご教示を受ける。

1924年11月に、孫文は 上海→長崎→神戸と訪問 神戸で「大アジア主義」について講演
(中国革命の父・孫文)

十一月二十八日、孫文は神戸商業会議所など五団体の招きに応じて、神戸高等女学校で「大アジア主義」と題する演説を行った。

聴衆は三千人にも達し、会場は立錐の余地もなく熱気に満ちて、会場から溢れた人々のために急遽第二会場が設けられ、孫文はまず第二会場で聴衆に挨拶した後、本会場に入った。

孫文は講演「大アジア主義」で言う。

「われわれが『大アジア主義』をとなえるとき、王道を基礎とするのは、不平等を打破するためです。アメリカの学者はあらゆる民衆解放運動を文化に叛く行為とみなしています。従ってわれわれが現在、提唱している不平等を打破するための文化は、覇道に叛く文化であり、あらゆる民衆の平等と解放を求める文化であります。

あなたがた日本民族は、欧米の覇道の文化を取り入れていると同時に、アジアの王道文化の本質をも持っています。日本が今後、世界の文化の前途に対して、いったい西洋の覇道の番犬となるのか、東洋の王道の干城（外敵を防ぐ城、盾）となるのか、あなたがた日本民族がよくよく考え、慎重に選ぶことにかかっているのです」（孫文「大アジア主義」『国父全集 第二冊』野口鐵郎編『資料中国史 近現代編』白帝社、二〇〇〇年）

孫文は、日本の中国侵略の意図を強く牽制するとともに、不平等条約の撤廃と日中協力の重要なことを力説したのである。

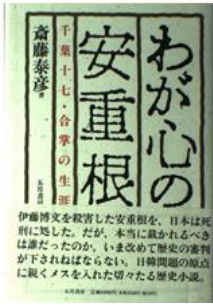
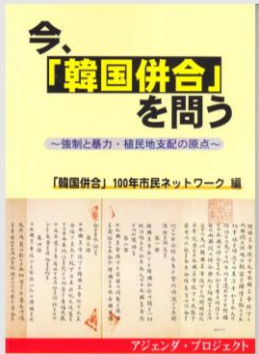
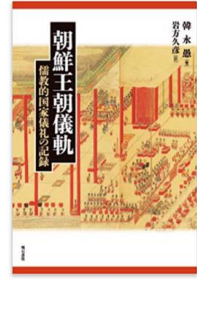
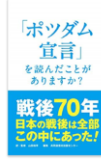
講演が終わると、数千人の聴衆からは割れんばかりの拍手が起こり、聴衆は会場前の広場に集まったまま動こうとせず、三十分もの間、孫文を囲んで歓呼を叫んだ。

今回の旅行は、はからずも孫文の最後の日本訪問となった。

そして「大アジア主義」の講演は、孫文が生涯をかけて友人とみなし続けた日本に対して残した、最後の問いかけであり、切なる願いでもあった。

【参考文献】

今回の国際学術会議で参考にした資料

① 朝鮮半島と日本列島 	② 財界につぼん 	③ 韓国講演資料 	④ 安重根 107 回忌 
⑤ 2009 年 2 月 22 日 くにびきメッセシンポ資料 	⑥ 安重根と伊藤博文 	⑦ 	⑧ 
⑨ 	⑩ 	⑪ 	⑫ 安重根関係のビデオ 以前に小松社長から ご紹介を受けたもの。 YouTube にアップさ れているものなど。
⑬ 安重根 108 回忌 2018 年 3 月韓国訪問報告 	⑭ 	⑮ 	⑯ その他 朝鮮、韓国、 満州、中国関係の 資料など 

【所感】 小林 泰久

この度は小松社長に随行させていただき第 6 回日韓国際学術会議に参加させていただき、韓国・日本の課題を通じてアジア市民として共生について真剣に考えて行動している方々のお話を聞く機会をいただき有り難うございました。

先日の専修大学に続き小松社長の講演は、小松社長の講演を 10 分程度にまとめ、後に出雲から陽が昇ると JTBC ニュース映像をご覧いただく流れは参加される方々に強い印象を残し感動されると感じました。また、今回の学術会議など日韓の先生方がこれほど熱心に読み聞きしたことを自分の言葉に置き換えて協議し、今後の日韓関係向上に向けた活動を、如何に多くの方々が関心が湧くように広める必要があると感じます。

今回、龍谷大学では文化祭が同時に開催されていましたが、学術会議に参加する学生は 2 日目の 1 人のみでした。龍谷大学に寄託された安重根義士の遺墨 4 点を学生など若い世代にも見ていただき日韓の歴史に関心が湧き、今後開催される学術会議などにできるだけ多くの方々に参加いただくよう次に繋がる会となると、世代間で議論できるきっかけが生まれると感じました。

【所感】 佐野 馨

東京の専修大学での岡倉天心国際賞のご授賞、小松社長ほか国内外トップの方々のご講演を聴かせていただく機会を賜わり、今回は、京都で第 6 回日韓国際学術会議に参加させていただきまして、安重根に関するご見識ある方々のお話を聴かせていただきまして大変ありがとうございました。

安重根については、小松社長が 2009 年 2 月 22 日に松江市のくにびきメッセでシンポジウムを開催されたおりに、安重根と千葉十七の関係を紹介されるビデオを放映されて非常に印象に残っております。

そして、昨年 2018 年 3 月 26 日に韓国訪問に同行させていただきまして、安重根 108 回忌の記念式典に参列させていただきました。その時に、小松社長から、韓国・朝鮮情勢、安重根や韓国併合に関するもの、の書籍や報告書、ビデオなどをご紹介されて改めて深く学ばせていただきました。現地では尹熙竣代表様の親切をお受けし、安重根義士纪念馆や大韓民国歴史博物館、揚花津外国人宣教師霊園 H.B.ハルバート宣教師墓苑などを訪問、視察させていただきました。現地、現場、現実の実態を、この目と・この手・この肌で、感じさせていただきました感謝しております。その時の印象は多数の刺激を受けておりますが、特に、左掲のように、「日韓併合条約」締結に署名・調印した寺内正毅が祝宴短歌を、石川啄木は憂い短歌を残している点が心に響いています。石川啄木も日本の行く末を冷静に将来を見据えておられたと感心しております。



（上記写真の「日韓併合条約」締結に寺内正毅の署名・捺印がされている。）

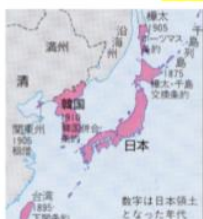
「日韓併合」をめぐる「2つの短歌」（ネットより抜粋転載）
1910年8月29日。500年も続いた「李氏朝鮮」が崩壊して、現在の韓国と北朝鮮が「大日本帝国」の一部になりました。（注 日韓併合条約はその1週間前に締結されたのですが、一般的には公布された8月29日を「併合」の日としています。）

この日韓併合条約が発表されると、朝鮮では大地をたいて泣く人々が多くいました。しかし日本では「国威発揚」のときとばかりにちょうちん行列や花電車が出ていたのです。さて、「日韓併合」に関しては有名な2つの短歌があるので、今回はそれを紹介しよう。

「小早川 加藤 小西が 世にあらば 今宵の月をいかに見るらむ」

これは、初代朝鮮総督であった寺内正毅が「朝鮮併合」の成功を祝う宴会で詠んだ短歌です。「朝鮮併合の夢半ばにして挫折した武将「小早川秀秋、加藤清正、小西行長」の3人がいたら、今夜の月をどのように見るだろうか」という意味で、豊臣秀吉の大業を成し遂げた寺内の嬉しい気持ちを詠んでいます。 ちなみに1910年8月29日は、月齢11でした。満月に近い月が、朝鮮の夜空を照らしていたのです。

「地図の上 朝鮮国にくるぐると 墨を塗りつつ 秋風を聴く」



日本国内の祝賀ムードの中で、状況を冷静に見た人も少数派ながらいました。

そのうちの1人が、上の短歌を詠んだ石川啄木です。

「日本に併合されて消滅した朝鮮国の悲哀」を、墨を塗りながら聴いた秋風に重ねた短歌だと言われています。

（ネットより抜粋転載）

韓国併合（かんこくへいごう）

1910年（明治43年）8月22日に、韓国併合条約が調印（国左のソウル城郭内）で寺内正毅総督と李承晩首相が

もちろん、一番の目玉であった、安重根義士 殉国 108 周忌 追悼式（安重根義士紀念館）への参列、安重根義士 平和思想 宣揚 國際交流會（世宗ホテル）参席で、多くの方々のお話をお伺いして安重根義士の知識を高めることができたことが大変に良い収穫になっております。

これらの予備知識を入れて、今回の第 6 回日韓國際學術會議に参加させていただき、小松コリア尹熙竣代表様と共に、遺墨の原本、写真の原本の閲覧にもご案内いただきまして光栄の極みに思います。

國際學術會議の講演や懇親会の会話なども改めて知識を深掘りされてくる感じで、更なる知識を求めて龍谷大学様発行の書籍なども購入させていただき、島根県立図書館などに覗かせていただきました。島根県立図書館の貸し出しコーナーには安重根や伊藤博文に関する書籍は少ないように思えました。五味先生からご紹介のありました宮城県の看板変更は、地元の国会議員が先頭にたって宮城県庁、国会に申し入れを行い、宮城県も変更せざるを得ない状況だったようで、安重根と千葉十七の関係がないがしろにされているような想いでとても残念に思っています。昨年の韓国で紹介がありました、佐賀市にあった東洋平和祈願碑建立も、2 年前にお寺の住職が亡くなればたら反対派の執拗な攻撃にお寺の家族の方もついに負けて祈願碑がなくなった。とのことで、安重根に無理解な反対派の力が、日韓交流や東洋平和・世界平和の方向から間違った方向に威力を増している感じで、この先、日本の状況をととても憂いています。しかし、今回のお話を聴かせていただきますと、大事なことは正義感を持って、信念を持って、一歩、一歩、進むべきと思いました。

たびたびに、貴重な會議の席に参加させていただきましてありがとうございました。報告書のまとめ・提出が遅くなりましたが感謝を申し上げます。